

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\* 1971年一般公開写真29枚（東京天文台100周年記念誌資料2-1-2）**

東京天文台100周年記念誌資料の整理をしており、次々と資料について記事を書いている。今回は東京天文台100周年記念誌資料—その2—のダンボール箱の菓子箱に入った多数の写真の一部で、アーカイブ新聞第349号のリストでは、

1) 紙箱入り写真

2. 46年10月2日の日付がある東京天文台一般公開の写真：29枚（卯酉儀の写真あり）と書かれたものである。

東京天文台の一般公開は、創立75周年記念式典が1953年10月29日に举行され、10月29日が記念日とされ、その日に近い上弦の月の土曜日に行われる慣例になっていた。この原則からは10月2日は少し早いようだが写真の裏にこの日付のゴム印が押してある。

一般公開の全体像が分かるような写真はなく、展示を記録したものようである。できるだけ同種の展示を集めるようにしたが、順不同になっているのはご勘弁いただきたい。



写真1

写真2

写真3

写真4

写真1は、当時の下村事務長が見学者に対応している場面である。当時は事務長も表に出てサービスを心掛けていた様子が分かる。写真2は、岡山天体物理観測所、写真3、4は堂平観測所の展示である。



写真5

写真6

写真7

写真 5、6 はシュミット望遠鏡の展示である。1971 年（昭和 46 年）3 月にシュミット望遠鏡建設委員会が設置され、銀河系部が発足しシュミット望遠鏡計画が進められていた。写真 7 は展示以外の写真で、ゴーチェ子午環室である。



写真 8



写真 9

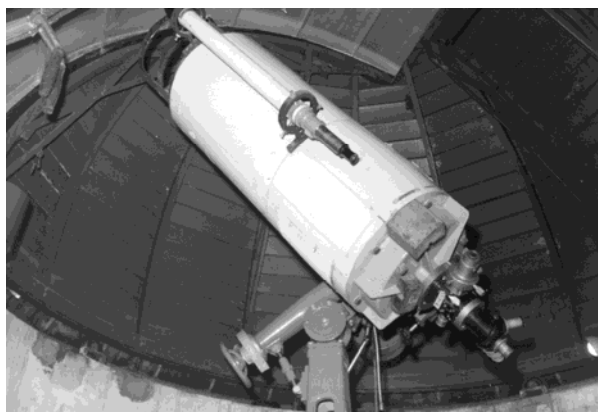


写真 10

写真 8 は、電波望遠鏡の展示であり、1969 年（昭和 44 年）には野辺山に太陽電波観測所が開所している。写真 9 は測光部の夜光観測装置をロケットに搭載し打ち上げた展示である。写真 10 は、卵西儀と呼ばれた日本光学製の 30 cm 反射望遠鏡である。筆者はこの望遠鏡を使って三鷹で 3 色測光を長年続けたが、その観測を始める前の姿である。

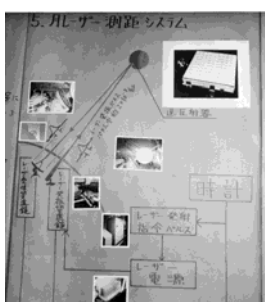


写真 11

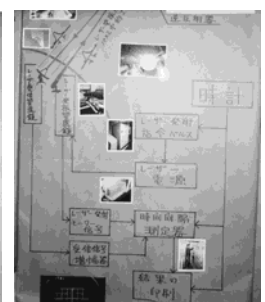


写真 12

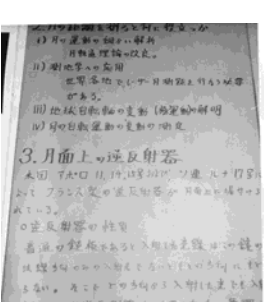


写真 13

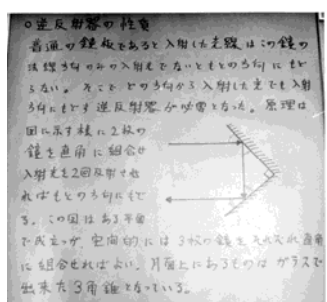


写真 14

写真 11～14 は月レーザー測距関係の展示である。1971 年 9 月に堂平観測所に月レーザー測距儀が設置されたばかりであり、展示の目玉であったろう。写真 13、14 は月面に置かれた反射盤の説明展示である。写真 15 は、月レーザー測距の岡山天体物理観測所における予



写真 15

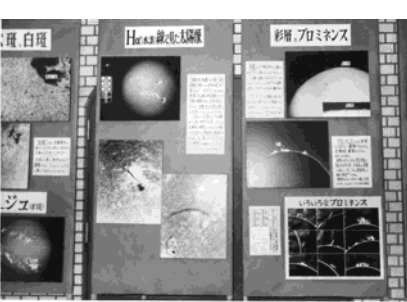


写真 16

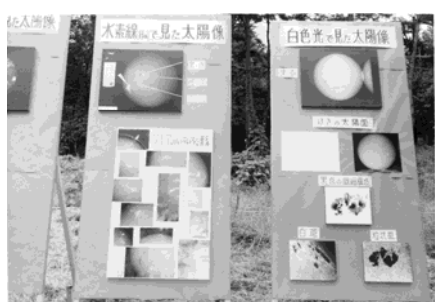


写真 17

備実験の展示である。写真 16 からは太陽関係の展示であり、写真 17、18 は現在の東大天文センターの敷地にあった「モノクロ」と呼ばれた太陽単色写真儀室脇に展示された掲示である。写真 19 は、斎藤国治先生グループの 1970 年 3 月 7 日のメキシコにおける皆既日食のコロナの偏光測定の結果である。



写真 18

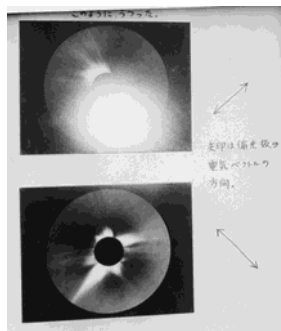


写真 19



写真 20

写真 20～28 は、天文時部の展示であり、世界時、標準時、原子時計などの説明展示で、特に、目玉はこの年に始まった「うるう秒」を中心にした展示が行われている。

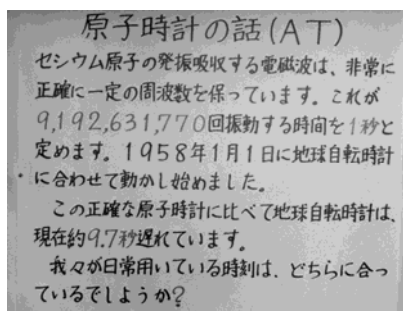


写真 21

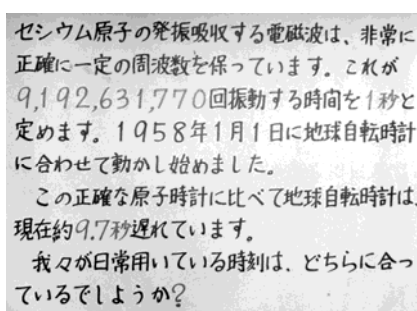


写真 22

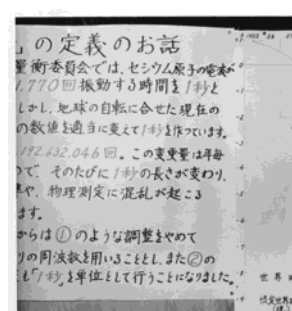


写真 23

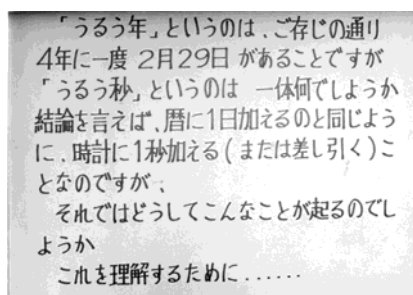


写真 24



写真 25

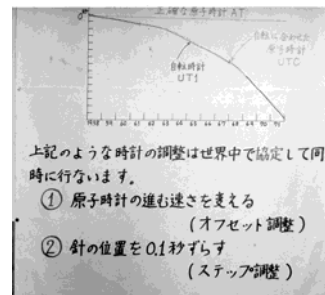
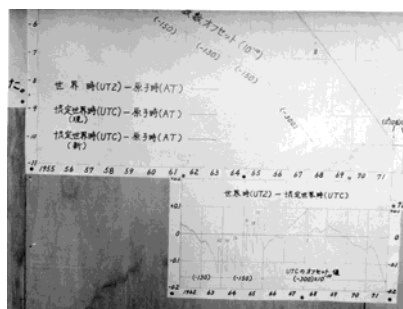


写真 26



左は写真 27 である。これら天文時部の展示の写真は説明文を主として撮影しているが、図があまり写っていないので、図との関係がよくわからないような写真になっている。

表題には写真 29 枚となっているが、同じ写真もあり、ここには 27 枚を掲載した。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)